

「自分から自分でせいはい」自分らしく輝く子どもを目指して

Reinbow

令和5年5月 須坂市立須坂支援学校 学校だよりNo55

(文責:教頭)

「ご入学・進級おめでとうございます」 令和5年度の須坂市立須坂支援学校がスタートしました。

4月7日(金)、小学部1年生3名、中学部1年生2名、小学部への転入生1名を新たに迎え、全校児童生徒33名と、職員35名で、令和5年度の須坂市立須坂支援学校がスタートしました。子どもたちが学校にやって来るのを今か今かと待ち構えていた満開の桜の下、子どもたちの笑顔が光る、4月の出発となりました。

入学式の小松賢吾校長先生のお話から

〈入学式において〉

今年の春は暖かな日が続き、満開の桜が皆さんの入学をお祝いしてくれています。須坂支援学校の小学部・中学部に入学されたみなさん、ご入学おめでとうございます。みなさんが来るのを、お兄さん、お姉さん、先生方も、とても楽しみにしていました。支援学校のアイドル、どんちゃんもみんなを待っていました。これからみんなで一緒に仲良く過ごしていきましょう。

〈入学式保護者の会において〉

保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。須坂支援学校は、「障がいのある子どももない子どもも、地域の子どもは地域で育てる」という地域の皆様の熱い思いで開校し、十三年目となります。須坂小学校と共にある校舎、地域の中で学びながら、共生社会を主体的に生きる確かな力が育つように、また、一人一人の個性が輝き、どの子も「明日もまた来たい」と思える学校となるように、教職員が力を合わせ、精一杯取り組んでまいります。



今年三月に文部科学省の有識者会議で「通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方に関する検討会議報告」の案が示されました。その中では、特別支援学校と小中学校や高校のいずれかを一体的に運営するモデル校を創設し、障害のあるなしにかかわらず子どもたちが一緒に学ぶ状況を目指すべきだと提言しています。具体的には、特別支援学校を含めた二つ以上の学校が連携し、交流や共同学習などを行って教育の成果を高めていくことを想定しているとのこと。まさに本校のような学校をつくっていききたいとのこと。本校がこれからの学校のあり方のモデルになっていくかもしれません。そのためには、新入生本人や保護者の方が実際に入学してみて感じた良さや課題を是非お伝えいただけたらと思います。これからの時代を生きていく子どもたちのために、よりよい学校の在り方を共に考えてまいりたいと思っています。

保護者の皆様には、須坂支援学校・須坂小学校両校の教育活動に、深い御理解と御協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

ご多用の中ご臨席賜りました須坂市教育次長 山岸和美様はじめ、たくさんの来賓の皆様、本日は誠にありがとうございました。今後のさらなるご指導とご支援をお願い申し上げ、式辞といたします。

令和5年度職員組織の紹介

校長：小松 賢吾 教頭：森本 高久

	ク ラ ス	担 任	教員補助員
小学部			
	名簿の公開は、配付したものとさせていただきます。		
中学部			

4月・5月 支援学校の様子



○小学部ようこそ会（小学部）

あたらしいおともだちのために、部全体で準備をして行いました。にじ組のみんなが中心となって、進行をしてくださいました。あたらしいおともだちの自己紹介や、ダンスをしてみんなで楽しい時間を過ごしました。



○みすず公園づくり（中学部）

みんなの広場（中庭）で、自分たちの（小学部・中学部・小学校みんなの楽しめる）公園づくりをしています。装飾・遊びグループが公園の整備をして、公園で楽しめるように、お菓子グループはクッキー作りをしています。



○レインボーアート

小学部・中学部の児童生徒みんなで、全校集会レインボータイトムで飾る虹づくりをしました。集まったみんなでいっしょに白い部分がなくなるように、協力したり、譲り合ったりしながら、きれいに塗ることができました。完成が楽しみです。